TM Club New Year's Meeting 2020

第42回 トラベル懇話会

新春講演会

阿川佐和子氏を講師に、旅への気づき開く

トラベル懇話会は、多くの旅行業界人が集う新年の恒例行事、賀詞交歓会と新春講演会を2020年1月9日に開催します。
講師は作家・エッセイストの阿川佐和子氏。巧みな話術で何を語るのか、必聴です。

講演

私が旅に求めること

～これまでの旅行体験を通じて～

作家・エッセイスト **阿川佐和子**（あがわ さわこ）氏

Profile

東京都出身。慶應義塾大学文学部卒業。TBS「情報デスクToday」「筑紫哲也NEWS23」「報道特集」でキャスターを務める。以後、執筆を中心にインタビュー、テレビ等幅広く活動。1999年『ああ言えばこう食う』（檀ふみ氏との共著）で第15回講談社エッセイ賞、2000年『ウメ子』で第15回坪田譲治文学賞、08年『婚約のあとで』で第15回島清恋愛文学賞を受賞。テレビ朝日「ビートたけしのTVタックル」、TBS「サワコの朝」にレギュラー出演中。近著に『老人初心者の覚悟』（中央公論新社）。14年第62回菊池寛賞を受賞。

撮影 柳本操

Program

12:30-13:10 • 賀詞交歓
13:15 • 開会
13:15-13:20 • 会長挨拶

トラベル懇話会
会長　原優二

13:20-13:30 • 祝辞
観光庁長官
田端 浩氏（予定）

一般社団法人
日本旅行業協会会長
田川博己氏

13:30-15:00 • 講演
15:00 • 閉会

司会　美甘小竹
株式会社フィンコーポレーション
代表取締役社長

日時
2020年1月9日（木）
Date / January 9th, 2020

場所
有楽町朝日ホール
Place / Yurakucho Asahi Hall
東京都千代田区有楽町2-5-1
有楽町マリオン11階

開場
12時30分
Door Opens / 12:30
※昼食を済ませてご来場ください

入場無料
お申し込みはこちらから。ご入場は旅行・観光産業従事者の方に限らせていただきます。

●主催：トラベル懇話会　●後援：株式会社トラベルジャーナル　●お問い合わせ：トラベル懇話会事務局　Tel 03-6682-5674
●お申し込み：jimukyoku@tmclub.jp（会員）／http://bit.do/fhEiX（会員外）

AIG
AIG損保

The New Standard
私たちがめざすのは、
21世紀の標準となるような旅行保険。
快適な旅をサポートするため、
さらにサービスを充実させていきます。
ジェイアイ傷害火災保険株式会社
〒104-6016 東京都中央区晴海1-8-10
晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX 16階
TEL.03（6634）4000 http://www.jihoken.co.jp
JI6A0322

TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動
皆様の旅行に『安心・安全』を。
東京海上日動火災保険株式会社 旅行業営業部
〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-16 TEL:03-5537-3490
www.tokiomarine-nichido.co.jp

［PR］

海外旅行の発展へ決意
新春の集いに旅行業経営者ら486人

旅行業の経営者らでつくるトラベル懇話会は1月9日、
東京・有楽町朝日ホールで第42回賀詞交歓会・新春講演会を開いた。
会員をはじめ、旅行会社や業界団体、航空会社、観光局、ホテル関係者ら総勢486人が参加。
海外旅行者数が過去最高を記録した19年に続き、20年の市場拡大へさらなる飛躍を誓った。

市場拡大へ決意を新たにする第42期役員

年頭の挨拶

業界の価値磨く

原優二氏
（トラベル懇話会会長）

海外旅行市場が拡大しています。旅行会社離れが進み、手放しに喜ぶことはできませんが、特に20代が市場の成長をけん引しており、歓迎すべきことと考えています。

今年は5Gが商用化され、IoT、AI（人工知能）の世界に移行していきます。ツアーだけでなく、業務渡航や団体旅行なども旅行会社の価値です。インターネットやAIに負けないコンサルティングも旅行会社にしかできません。旅行業界はインターネットの普及で流通構造からはじき出された観がありますが、オリジナルコンテンツを創造し、同じ轍を踏まないように真剣に取り組んでいく必要があります。

来賓の言葉

観光先進国へ協力

加藤進氏
（観光庁審議官）

昨年は相次ぐ災害や国際情勢の変化により観光は大きな影響を受けました。一方、ラグビーW杯やG20観光大臣会合の日本開催を通じて、観光の意義や交流の力が見直されたのではないでしょうか。20年は訪日客4000万人の目標年であり、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。これを機とした特別キャンペーンや受け入れ環境の整備など行い、内外に日本各地に足を運んでもらえるよう後押ししていきます。

国際感覚の涵養、相互理解の増進の観点からも若者のアウトバウンドは特に重要です。業界と協力しながら市場の拡大に取り組んでまいります。

田川博己氏
（JATA（日本旅行業協会）会長）

来賓の言葉　人の価値示す

令和の時代をいかにツーリズムの時代にするのかが問われています。東京オリンピック・パラリンピックの開催で日本あるいは世界を知る大切な年になりますし、双方向交流の拡大で交流新時代を迎えました。一方、相互交流1億人を超える国もあり、日本はまだまだです。住んでよし、訪れてよしの国づくりの原点に戻り、観光立国を推進していく必要があります。

観光力は人間力。人間の価値をいかに示すかが、ツーリズム産業の役割です。人のぬくもりをいかに伝えていくのか。人の価値についてもう一度、懇話会などとともに議論し、来る新たな時代をわれわれの時代にしていこうではありませんか。

新春講演会

私が旅に求めること ～これまでの旅行体験を通じて～

作家・エッセイスト　阿川佐和子氏

新春講演会では作家・エッセイストの阿川佐和子氏が登壇し、自身の豊富な旅行経験をユーモアたっぷりに紹介。「トラブルが旅の醍醐味」「日常と離れることが旅行の魅力」などと語った。

★トラベル懇話会・2020新春講演会報告★

報告：西川敏晴（元「地球の歩き方」代表）

第42回「2020年・トラベル懇話会新春講演会」は、1月9日、有楽町の朝日ホールで開催された。冒頭、原優二会長（風の旅行社社長）があいさつに立ち、転換期の海外旅行事業の取り組みのキーワードとして「オリジナルコンテンツの創出」を提案し、市場や世界の現在の動きに触れながら、業界として「顧客の創造」に取り組む年であることを強調した。

2019年の海外渡航者数2000万人あと一歩届かなかったようだが、海外旅行市場が拡大していることは確かなこと。一方で、旅行会社離れが進んでいることも見逃せない。目下、アウトバウンド市場を牽引しているのは、20代の若者たちで、JTB総研の「海外旅行の現状2019年」によれば、2018年の20歳～24歳の女性の出国率は40.5％、25歳～29歳は33.6％、合計約214万人、同年代の男性を加えると約338万人、全体比17，8％。2019年には、さらに続伸した模様だ。

若者の渡航先は、東アジアや東南アジアに集中しているが、2000年当時は、ヨーロッパが、19.7%と最も高かったことを思うと隔世の感あり。支えている要因の一つがLCCで、ますます旅行会社離れの兆候が見られ、またネットによるFIT化も年々進んでいる。

新春講演会にふさわしく、前向きな話に切り替えて申し上げれば、とにもかくにも、旅行市場は拡大して、実際に多くの若者が海外に出て行っている。まずは、この事実を歓迎し希望としたい！後は、私たちのビジネスの工夫次第といえる。

さて、今年はオリンピック・パラリンピックの年、イベントをテコに、5G、IoTそしてAIが飛躍的に進む年との予測だ。そんな中、現状を、「100年に一度の大変革の時代」ととらえ、「モビリティカンパニー」に生まれ変わると宣言しているのがトヨタ。豊田章男社長は、米国で開催されている「CES 2020」で、あらゆるモノやサービスがつながる実証都市「コネクティッド・シティ」＝「Woven City（ウーブン・シティ）」を静岡県裾野市につくると発表した。

この大変革の時代に旅行産業は、インターネットで流通構造からはじき出された轍を踏まず、旅行産業の軸を保ち発展させるためには、どうすればいいか？

答えは、「オリジナルコンテンツ」を自ら創造し、提供することこそが必要である。では、オリジナルコンテンツとは、具体的に何か？

業務渡航のソリューションも、団体旅行の手配力・調整力も「その会社にしかできないノウハウ」なら、オリジナルコンテンツ。「ネットやAIに負けないコンサルティング」であるなら、オリジナルコンテンツだ。但し、店舗でコンサルをする時代はすでに終焉した。アメリカに学び、「ホームエージェント制度」を日本にも導入、クルーズ企画や高額商品のコンサルを顧客のもとへ自ら出向いて、実行する時代となる。さらに、「訪日外国人を顧客にするオリジナルコンテ

ンツ」が提案できれば、インバウンドの市場への参入も十分可能だ。
　ドラッカーによれば、企業活動の目的は「顧客の創造」であり、利益の最大化は結果にすぎない。自社の顧客をどれだけ新たに創り出せるか。優れたオリジナルコンテンツを提供することこそが、顧客を創造することに繋がる。
　昨日も、イランの報復が始まったというニュースが流れたが、平和ほど人類にとって、また我ら旅行産業にとっても大切なものない。本年の皆様のご多幸と旅行産業の発展を祈念し年頭のご挨拶とします。

　原会長のあいさつの後、加藤進観光庁審議官が登壇、目下の施策の成果と展望を折り込んで、祝辞を述べた。田川博己日本旅行業界会長は、2020 年、令和の年を交流の時代と位置づけ「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を提案。観光力は人間力であり、５Ｇ，ＡＩとは別に、人の力と価値でツーリズム新時代を盛り上げることが重要であると語った。

佐川佐和子さんの旅の話の講演
　2020 年の新春講演会のゲストは、エッセスト、インタビュアーとして大活躍の阿川佐和子さん。演題は「私が旅に求めること～これまでの旅行体験を通じて～」講演内容の詳細を報道・メディアによる紹介、報告を禁ずるとの内容が契約書に盛り込まれ、取材陣にも事前に伝達された。新春講演会では、初めてのケースである。
　阿川佐和子さんの父上は、小説家である阿川弘之（1920～2015 年）氏、自らの海軍での経験を活かし、海軍関係の人物や歴史を描いた作品が現在でも読まれているが、実は大の乗り物好きで、とくに鉄道が好きであった。鉄道エッセイ・シリーズとして、内田百閒の『阿房列車』に敬意を表して『南蛮阿房列車』というタイトルで、国内外の鉄道旅行紀行を数多く執筆した。文中に友人の遠藤周作、北杜夫、娘の佐和子さんも登場する。その旅好きのお父さんのことや佐和子さん個人の旅の思い出を一時間半に渡り、数多くのエピソードを交えて語られた。旅行のプロの観客の前で旅の話をする難しさを感じつつも、阿川佐和子さんの個性あふれるトークだった。
　私は 20 代の頃、学生ツアーの企画でケニアのナイロビに滞在したことある。その時にサファリ会社の経営者のお宅で阿川弘之さんに偶然にお目にかかり、食事をご一緒したことがあった。阿川弘之さんは、「『南蛮阿房列車』の取材でマダガスカルからの帰りで、北杜夫さんとは昨日別れた」と話された。現地の人たちと会話するときは、ゆっくりと話す堂々たる声と英語が、たいへん印象的であった。1970 年代後半の思い出である。

　今年の司会者は、株式会社フィンコーポレーションの代表取締役社長美甘小竹さんが、初登場。落ち着いた声と司会ぶりはたいへん好評だった。今年の講演会の参加人数は、463 人だった。

【注】2020年1月17日発表の日本政府観光局（JNTO）推計値によると、2019年の出国日本人数は、20,080,600人と記されており、海外渡航者数2000万人を達成した。（2020年1月21日、トラベル懇話会事務局）